



木村キヨ子さん (船越・69歳)

十八番は「河内おとこ節」

★小さい時の思い出は
父を早くに亡くし、幼いころから祖父の漁や農作業などを手伝っていました。イカ釣りに行った時は、夜の海が不気味で怖かったのを覚えています。

★若い時の仕事は
十九歳ごろから定置網の飯場の賄いをしていました。宮古の川代、宮城、静岡といろんな所に行きました。宮城に行った時

は飯場は離れ島で、電気や水道も無かったので、毎日何キロも歩いて水をくみに行きましたね。

★楽しみは何ですか
六十歳の時に入った老人クラブでのカラオケですね。ゆったりした歌より威勢の良い歌の方が好きで、よく歌っています。

★宝物は何ですか
やっぱり孫が宝物。元気に育ってくれることが一番です。

★町へ望むことは
みんなが健康で楽しく生活していけるよう、暮らしやすい町になってほしいです。

イラスト



佐々木菜都弥(12) 平石凌(9) expert(16) ちょこ(?) 牙(11) わち。(?) 坂本恵(14) 平石健(7)
佐々木菜奈(8) A.F(14) 佐々木香遥(12) びーふしちゅー(12) 三ッ木ー(14) 佐々木純子(9) 上野歩(8) 上野美波(11)
今村陽子(?) おのはるな(5) 黒羽カラス(16) 山内菜緒(10)
上野幸成(11) 川部紗知(?) 山内芽依(7) 福川美里(10)

みんなのスペース



そとだてみずほちゃん (轟木児童館・6歳)

わたしのゆめ

大きくなったらお花屋さんになって、大好きなお花に囲まれて暮らしたいな。

投書

どんなことでも結構です。どしどしお寄せください。

船越駅にトイレ設置を

先日、私用で岩手船越駅に行ったら、見知らぬ人に「トイレはどこですか」と尋ねられ、「無いです。今列車が来ますので、列車で用を足してください」と言いました。だれしも見知らぬ所に行って、このような場面に遭遇した人はトイレのありがたさを痛感すると思います。JRの管轄かもしれませんが、また町財政も厳しいことと思いますが、良い方向に検討願います。船越のシンボルとは大げさですが、船越地区の一人として駅にトイレが設置されることを願いたいものです。

山崎泰司(船越・57歳)

【回答・総務課】

ご意見のとおり、JRの経営事情で岩手船越駅の駅舎が建て替えられ、同時にトイレが無くなっています。町内では織笠駅も同様です。船越地区を訪れる方々には、

心温まる座布団に感謝

昨年はイラク紛争をはじめ、国内では本町でも大きな被害を受けた三陸南地震など、暗い世相だった気がします。でも新しい年がスタートした先日、ちょっとした明るい話題もありました。中央町のバス停留所の腰掛けいすに、寒さに震えながらバスを待つ人を気遣って分厚い座布団が敷かれています。この寒い冬期でも立ち寄ることの多いわたしたちは、だれとも知らぬ行為に好感を抱いています。バスを利用している町民は、かかりつけの病院などに通院の高齢者が多く、この座布団のありがたさはひとしおに違いありません。失礼を承知で

財布を届けた方に御礼

小寒の日、町でがまぐちを落としてしまいました。皆には、「今どき警察に届ける人はいない」と言われましたが、お守りも一緒に下げていたので、警察へ行きまして届けており、ありがたいと思えました。受け付けのお巡りさんも優しい方々でした。そして早速、届けてくれ

も必要かもしれません。愛犬家の皆さん、ご近所に迷惑を掛けていないかも一度確認してみてください。

無駄ぼえ犬に大変迷惑

昼夜を問わず、のべつまくなしに無駄ぼえをする犬を放置する無責任な飼い主に困っています。我々は野中の一軒家に暮らしているわけではありません。犬を飼う人には、少なくとも近所迷惑にならないよう細心の注意を払う義務があると思います。

匿名希望(中央町・43歳)

【回答・生活環境課】

犬の無駄ぼえ(鳴き声)については、しつけや十分な運動をさせることで解決できる問題です。飼い主のマナーやモラル向上については、犬の登録や狂犬病予防注射のお知らせの時にチラシ「犬が鳴く理由と対処法」を飼い主全員に配布したり、広報に記事を掲載したりするなど、啓発を図っています。町としては今後も啓発活動を続けていきますが、飼い主がご近所に迷惑を掛けていることに気付いていない場合もありますので、周囲の皆さんが注意してあげること

方にお礼に行ってまいりました。若くて素晴らしい方でした。本町にありがとうございました。

甲斐谷セチ(八幡町・88歳)

◇ ◇ ◇

曹洞宗の門を何度か叩きつつ俺は病んでいる
いつしか古希も過ぎて
吹く風も冷たく
身を刺すように我に厳しい
神が与えてくれた命
今年も頑張る事にしようか

岡市健吾(飯岡・?歳)

すっぽりと雪に埋まる山の湯で「熊ツ」みたいな冬眠をする
さとうみえこ(大沢・84歳)

北風にまたたく星も寒寒と
佐藤照男(川向町・?歳)

年賀状とどいて彼の無事を知る
佐藤菊實(荒川・76歳)

紅白の「荒城の月」久にきき
幼き頃の師をなつかしむ
千代川貞(大沢・78歳)

天の月丸く光ぬ寒の入り
古藤野強(豊間根・79歳)

ひさびさに訛り親しき宴の座に
顔ぶれの減り古稀を迎ふる
菊地サカエ(織笠・68歳)

初顔やモチモチモチで福来る
大町テイ子(大沢・?歳)

目ざめれば
朝日まぶしい我家かな
佐々木エミ子(飯岡・?歳)